

Fujizack^{フジザック} 通信①⑥

これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。
【第16号】令和3年9月10日 文責：校長



(写真: 中日スポーツ)

7月23日(金)。ドラゴンクエストのテーマ曲が流れる中、東京オリンピック2020が開幕しました。

今回のオリンピックでは、空手、スケートボード、スポーツクライミング、そしてサーフィンの4競技が、新たに追加されました。“ゴン攻め”して“ビッタビタ”に着地を決めるスケボー競技では、競技を終えた選手を他の選手が囲んで賞賛したり激励したりする光景に、この競技の魅力を知りました。また、スポーツクライミング競技においては、スタート前にライバル同士が相談して攻略ルートを探している姿が、とても印象的でした。全員が金メダルを目指しているにもかかわらず、協力し合いながら共に高みを目指していこうとする選手たちに、勝敗を超越したスポーツの在り方を見たように思います。

オリンピックの熱気を引き継いで、8月24日(火)には東京パラリンピック2020が開幕しました。もの凄いスピードで泳ぐ肢体不自由の選手や、聴覚を研ぎ澄ませて攻防するゴールボールの視覚障害の選手など、人間の潜在能力とそれを引き出すための努力の証を見ました。車いすラグビーでは、障害の程度によるポイント制を設けることで、どのような状態の選手もワンチームで活躍できる工夫がありました。また、性別や障害区分の違う4人でリレーする400mユニバーサルリレーでは、競技の面白さを十分に味わいました。

多くの感動と発見をもらったパラリンピックは、9月5日(日)に静かに聖火台の灯が落とされました。

LGBT

..... Lesbian Gay Bisexual Transgender (Questioning)

という言葉を目にするようになって、しばらく経ちます。(近年ではLGBTQとも言われます)これは、性的指向や性自認に係るセクシャル・マイノリティーの総称として一般的に使われています。カミングアウトした人たちが、タレントとしてテレビで活躍したり、芸術家として秀逸な才能を発揮したりする姿を日常的に目にしていることから、社会においてもこの状態の人たちが一定数いることは、容易に想像できます。調査方法により数値に幅がありますが、その割合は3%とも10%とも言われています。(株式会社LGBT総合研究所、電通ダイバーシティラボ、働き方と暮らしの多様性と共生研究チームなどによる調査)

右の表は、学校におけるLGBTに対応した支援の事例について、文部科学省が示したものです。男性、女性といった型にはまった生活様式ではなく、一人一人の状態に寄り添った対応が必要とされています。

本校では、男女別の名簿ではなく、性別で分けない児童生徒名簿を使っています。制服(標準服)の指定については、男女間に柔軟性をもたせています。今後は、男性=青色、女性=赤色というこれまで定番だった色の使い方についても考えていきます。

項目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む)を児童生徒が希望する呼称で記す 自認する性別として名簿上扱う
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性) 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める
修学旅行等	1人部屋の使用を認める 入浴時間をずらす

2020東京大会でも、「ダイバーシティ(多様性)の尊重」がテーマの一つに掲げられていました。これからの社会には、LGBTをはじめとして様々な多様性を尊重すること、相互に理解することが求められています。



(写真: NHK)

障害のある子どもとない子どもを一緒にする【インテグレーション(統合)】教育を推進していた時代がありましたが、現在は【インクルージョン(包含)】という方向に教育は進んでいます。「別々のものを一緒にしよう」という考え方から、「元々が別ではなく一緒なんだよ」という考え方に移行しています。別組織で開催するパラリンピックではなく、オリンピックの中に障害者競技の部門を設けたインクルーシブオリンピックの開催も“あり”かな?